

平成 28 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076500125		
法人名	有限会社 ケアセンター すずらん		
事業所名	グループホーム すずらん	ユニット名	1棟
所在地	福岡県朝倉市杷木穂坂89番地の1		
自己評価作成日	平成28年9月26日	評価結果市町村受理日	平成28年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年10月31日	評価確定日	平成28年11月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲は、田・畑・果樹園、山並みや筑後川の流れが広がり季節の移り変わりが自然と目に見えています。押し車や車椅子の方が多く、散歩の時に季節の花や野菜、稲やブドウ、柿の実を見て楽しんで頂いています。地域の泥打ち祭り、よど祭りやお大師様などの行事にも参加し地域の方々との交流を深めるとともに、毎月、何らかの行事か外出を計画しホームでの生活を楽しく頂けるようにしています。また、御本人の出来る事はできるだけ御自分でやって頂けるよう支援しています。主治医やご家族との連絡を密にして、身体機能のレベルが低下した利用者様でも、出来るだけホームの行事に参加していただいたり、個別にドライブ等の外出の機会を設けるとともに、希望する方にはターミナルケアを行うなど、利用者様やご家族が「良かった」と喜んで頂けるようなケアに取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームすずらん”は馴染みの職員が多くなっている。日々の関わりについても、職員全員が同じ方向を向いている事を実感されており、ご利用者のお気持ちを大切にされたケアが続けられている。楽しいアイデアや企画も多く、職員全員が迅速な行動力で実現させており、ご利用者も職員も笑顔溢れる日々になっている。1年間の活動計画や地域行事等の一覧シートも作成し、「地域の一員」として、地域の方々や家族と一緒に四季折々の季節行事を楽しまれている。理念にある「地域のぬくもりと明るい笑顔ですずらんライフ」の実践に繋げており、職員と散歩をしながらミカン狩りをされたり、地域の方と楽しく会話をされている。日々の生活でも、ご利用者個々の願いである、「自分の足で歩きたい」「美味しいものが食べたい」等を把握し、少しでも立位や歩行ができるように生活リハビリが行われている。「自分だったら」「自分の家族だったら」と言う視点も大切に、ご利用者個々の行動の背景(原因)を分析し、より良い方向に向けた検討が日々続けられている。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟ごとに理念を掲示し、毎朝、申し送り時に唱和し、心にゆとりを持って利用者様に接するように、日々、心がけている。また、地元のお祭りに参加し、介護度の高い方にも楽しんで頂き、少しでも笑顔で生活して頂けるようにしている。事業所の行事に地域の方を招待して交流を行っている。	管理者と職員は、地元の生活(風習や行事等)や四季を楽しむ事を大切にしており、理念にある“地域と共に支えあい”を継続されている。「楽しい企画」を検討する事に喜びを感じる職員ばかりで、「心のゆとり」や「モチベーション」の維持に効果を奏し、「ストレス」を感じる事も少ないとの事。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、近所の方と会うと必ず挨拶、会話を行っている。ホームで大きな行事(夏祭りソーメン流し、餅つき会、敬老会)に利用者様家族以外にも地域住民の方や子供会を招待したり、餅つき会では地域の方に手伝ってもらい交流をしている。	お大師様参りや泥打ち祭り等に参加されたり、小学校の運動会の応援に出かけている。ホームのソーメン流しや餅つきの時も、地域の方や子ども達等と楽しむ機会が作られている。保育園児との交流も生まれ、敬老会では小塩ハッピー会の方がフラダンス等を披露して下さいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉科の高校から一日体験希望があり研修の場を提供した。本人から利用者様と関わって勉強になったと感想を言われた。地域の方に家族認知症の話をして介護用品の必要性を説明し提供した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開き、地域の民生委員、老人会長、市職員、利用者様、ご家族様に参加して頂き、研修報告や情報交換等を行い、質問や意見交換などを行っている。意見を頂いた改善点は早期に取りかかっている。	ホームの餅つき会等にも参加して下さい、その後に会議を行う時もある。1年間の会議テーマを決め、参加者と意見交換しており、職員の1年間の目標と反省も発表し、「頑張ってください」等の応援を頂いている。食中毒対策等の質問も頂き、取り組み内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修に参加したり、利用者様の利用条件等を尋ねられた。生活保護受給者のホーム入所の要件等の相談に行った。運営推進会議に市担当者が参加され質問や助言を頂いている。	管理者が市役所に出向き、疑問点等を相談している。空き情報を地域包括の職員に相談し、入居に関する情報交換も行われている。豪雪等で断水がある時も、朝倉市役所から事前に連絡があり、早めの対応を行う事ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止のパンフレットを玄関や事務所入り口に掲示しているので、特に注意をするようになった。施設内を自由に動いて頂き、座りやすいようにホールにソファや椅子を置き、職員と一緒に棟内や屋外を散歩されたりしている。	行動障害の原因を把握し、対応策を検討すると共に、医師にも報告し、アドバイスを頂いている。精神的な事が原因の時もあり、職員が寄り添い、少しでも安心できるように努めている。「身体拘束をしないこと」を家族にも理解して頂き、家族と一緒に過ごす時間も作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のケアの中で充分注意し、職員間で利用者様の事を話し合い、サービス担当者会議でも意見を出し合って、対策や対応を見出して解決している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービス担当者会議などで勉強会の時間を作り、資料等で勉強を行っている。	制度に関する勉強を行い、新人職員にも伝えている。制度のパンフレットを準備し、入居時に管理者が説明しており、入居後も制度の必要性の確認を行っている。必要に応じて、複数の方々にキーバンソンになって頂けるようお願いしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に「利用契約書」「重要事項説明書」「重度化した場合における対応に係る指針」「個人情報保護に関する同意書」を説明し、不安に思うことや疑問に対する事等を回答している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、生活状況報告書、すずらん便り及びすずらん報告をご家族に送っている。面会時に日常生活や身体状態を説明し記録を読んで頂いている。面会の時は、なるべく会話するようにしている。また、玄関に意見箱を設けている。	面会時などに要望を伺っている。ソーメン流しや餅つき等のホーム行事も一緒に楽しんで頂き、家族が宿泊できる環境も整えている。ご本人から「外出したい」等の要望があり、大分県日田市等へのドライブや外食等を企画し、楽しさを増やすように努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟のサービス担当者会議で意見を聞いている。職員間の意見はその都度、ユニット長が意見を聞き管理者に伝えている。	管理者と各ユニット長、全職員が結束し、ご利用者の笑顔と楽しさを増やす企画を考えている。行事や外出へのアイデアも多く、職員が積極的に外出の下見に出かけている。係の仕事の検討も行われ、毎月の勉強会やヒヤリハット対応の意見交換も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算届出書を提出している。職員の生活状況に合わせた勤務表を作ったり、産休育休の体制もできている。各資格手当、夜勤手当、介護業務手当を考慮している。研修は勤務扱いとして旅費を支給している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別、経験の有無による制限はしていない。各行事担当者を決めて本人達が能力を發揮し他のスタッフと協力して行っている。初任者研修に参加している。	管理者やユニット長は職員の自主性を大切にされている。ユニット長を交代制にしているユニットもあり、職員の意見も尊重しながら、広い視点で業務を見つめる機会になっている。介護福祉士を目指す職員もおられ、研修受講の機会も増やし、職員個々の長所を引き出すように努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の機会があれば参加し、サービス担当者会議にて報告するようにしている。業務中もご利用者様の行動を把握し情報交換を行っている。	管理者が「事業主人権問題研修会」等に参加し、「差別をしない」等の伝達が行われている。言葉遣いへの注意も行われ、ご利用者の行動の背景を分析する姿勢を職員に伝えている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のため、初任者研修や興味のある研修に参加できるようにしている。研修報告書を提出して、いつでも閲覧できるようにしている。資格所得援助金制度を設け職員の資格所得を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会、朝倉介護保険事業者協議会や福岡県社会福祉協議会などの研修会に積極的に参加し、他事業者との交流が実施できている。福岡県小規模事業所連携体制構築支援事業研修に参加している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族の了解を得て、ご本人様と面談を行い、主治医やケアマネジャー、ソーシャルワーカー、看護師などから情報を聞き、ホームでの会議の時にケア内容を話し合い職員間で情報を共有し、安心して入所して頂けるように準備している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時の情報を確認し、入所時にアセスメントにそって情報を聞き取り、家族の思いや不安を傾聴している。ケアマネジャーと職員間で意見を出し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族との面談で得た情報、今まで受けていたサービスがあればその情報、ケアマネジャーやケースワーカーからの情報を元にアセスメントを行っている。その情報を確認しながら職員で話し合いを行っている。他のサービスについても全職員で話し合いその都度、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にテレビを見たり、洗濯物をたたんで頂いたり、一緒に出来るお手伝いをして頂いている。好きな事が出来るようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に必ず状態の報告を行っている。ご家族様の要望等があった時は、職員全員で意見を出し話し合いを行っている。月1回、生活状況報告書を送り様子を知って頂けるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の話を聞き、馴染みのある場所や仕事、どこに住んでいたか等を聞き、その場面にいかしている。	日々の生活で生活歴等を教えて頂いている。馴染みのお祭りに参加した時に、知人の方と会話する機会もある。年賀状や「暑中見舞い」に写真を添付して郵送しており、定期的に絵手紙が届く方もおられる。馴染みのスーパーで買物をされたり、お墓参りに行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に長い時間1人でいる利用者様は、声かけしホールに来て頂き、レクリエーションに参加して頂いたり、利用者様の横につき声かけし談話したりして支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様と外でお会いしたりすると、声をかけたり、お話しさせて頂いたりしている。また、亡くなられた方のお葬式、初盆参りに行っている。死亡退所後も年賀状のやりとりをしているご家族様がられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情・行動の中から、本人の思いを受け止め、少しでも要望に近づけるようにしている。ご家族からも情報を聞き、会議で話し合い意向を検討している。	日々の願いと共に、年始や七夕の時も願いを伺っている。「いつまでも自分の足で歩きたい」等の願いを居室に掲示しているユニットもあり、別のユニットでも職員間で共有し、記録に残している。意思疎通が難しい方も、家族からお好きなものを教えて頂き、甘いもの等を食べて頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーから情報を聞き、入所時に本人様やご家族様とお話しをして、今までの暮らし方や生活環境をお聞きし、入所してから昔話などを聞いて、その方の生活環境を知るように努めている。それらを参考にし会議の時などスタッフ全員で考えて把握するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別介護手順書にて把握し、利用者様一人ひとりに合ったペースで生活出来るように、体調や心の状態を把握して、ご本人様の出来る事、出来ない事を見極めて理解している。本人の状態を観察し介護内容を見て把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様と面会時や電話で意見を聞き、ケアマネジャーがアセスメントにまとめて、サービス担当者会議で職員と情報交換や協議をし、利用者様本位の介護計画書を作成している。また、普段からケアマネジャーと話す機会を持ち、日々の状態や課題等を伝え、ケアプラン実行表でチェックし担当者が評価している。	ご利用者個々の要望を把握し、家族とも共有している。心身状況の変化や行動障害が見られた時は医師からの指示を頂いている。個別介護手順書も作成し、散歩や買い物、洗濯物たたみ、果物収穫等と共に、生活リハビリの視点も大切にされている。	今後は更に、有する能力(できる能力とできそうな能力)や行動障害の背景(原因)、要望をアセスメント記録を増やすと共に、できそうな能力も踏まえて、短期目標を具体化していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン、生活記録、体温表等を記入することで気付いたことを、その日の内に情報共有し工夫を行い、申し送り時に心身の変化等を伝えている。サービス担当者会議などで話し合い共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が病院受診できない時は、施設で行っている。かかりつけ医・専門の医療機関への受診をしている。家族へもその都度連絡をとっている。また、利用者様に必要な物をご家族様が持参出来ない時は、ご家族様の了解を得て、施設で準備している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事に子供会、老人会、保育園児、民生委員や地域の方に協力して頂き、ホームでの生活の様子を見て頂く機会がある。推進会議の中で意見等を聞くことが出来ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医の希望を尋ねて定期的に往診をしてもらったり、施設が連れて行って受診している。急変時、状態変化時には、すぐに看護師に報告し往診受診をもらっている。その都度、職員全員が把握するようにしている。	希望の医療機関で受療できており、看護師や家族が通院介助をしている。医師の往診があり、24時間体制で連絡を取る事ができる。体調の変化も医師に報告し、日々のケアや薬の調整などに繋げている。必要に応じて、精神科医に症状の相談を行い、アドバイスを頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職で日々の状態を伝え合い、状態変化時や夜中でも電話で看護師に報告し、24時間医療連携体制をとり、かかりつけ医に相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、お見舞いに行ったり、利用者の状況を医療機関に提供し、ケースワーカーと連絡を取り入院中の状態把握に努めている。退院後も生活状態の変化等をスタッフ全員が共有し、家族にも連絡している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医も含めて相談し、ターミナル同意書や緊急連絡先への記入を頂いている。また、ご本人様やご家族様には、意見や要望を聞き、可能な限り対応出来るように職員全員で情報を共有し、その都度、ミーティングをしている。	入居時に「ターミナルケアの体制」や「医療連携」等を説明している。体調変化時はホームの看護師に相談でき、医師の指示で点滴等も行われ、訪問看護師との連携もできている。職員全員で情報共有し、ケア内容の検討を続けている。終末期は家族がプリソ等を持ってきて下さり、最期の時を大切に、誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で勉強会を行い、マニュアルを作成し、目につくような所に置き、職員一人ひとりが、どのように行動したら良いのかを、各自、頭の中でシュミレーションを行っている。また、看護師や主治医から意見を聞き、応急処置や初期対応が出来るようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回のすずらんでの避難訓練、年2回の消防署立会の避難訓練を行っている。避難場所や通路、物品などは、担当者が定期的にチェックしている。夜間は玄関にスロープを設置している。また、避難した時の体験談を知らない職員に話したりして、常に意識している。	穂坂区と「非常災害時等に関する協定書」を締結している。地域の方に災害マニュアルも渡されており、一緒に訓練を行う方法なども検討予定である。自家発電で上水道が供給でき、非常食を常備し、避難時の持ち出し用キャリアも準備している。今後も実際に即した訓練方法を検討予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で常に尊厳をもった支援をするとともに、その人らしさを大切にしている。声かけや会話に傾聴することを心がけている。方言を使った会話だと理解しやすい場合は、その都度対応している。	ご利用者の日課を理解し、ご本人のペースで生活できるように努めている。言葉遣いにも配慮し、ご利用者の性格も理解した関わりを続けている。ケアの時は居室のドアを必ず閉めており、リビングのベッドで休まれる方もおられ、カーテンレール（防災カーテン）も設置された。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の立場に立って考え、言葉・表情により自己決定が出来るような声かけの工夫に取り組み、職員のペースにならないように気をつけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の日常業務より利用者様の希望を優先し穏やかに過ごせるように、ひとり一人のペースに合わせるように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の方に施設に散髪に来て頂いている。身だしなみにも気をつけている。離床された際は必ず髪をとかして目やになどにも十分注意している。季節に応じた服を着て頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり、食材を見せてどんな料理にしたらおいしいかを尋ねたりしている。食事は楽しい会話をしながら食べて頂くように心がけている。	ユニット毎に献立は異なり、ホームの菜園で採れた野菜等を使い、季節に応じた料理が作られている。郷土食(猪汁、鹿汁等)も好評で、彩りにも配慮した盛り付けがされている。流動食の方も食材に応じたミキサー食が準備され、ご本人の摂食嚥下状況に応じた介助がされている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の野菜中心に肉魚等を取り入れバランスの良い献立を作っている。利用者様ひとり一人に合った食事形態をし、ミキサー食、一口キザミ、トロミ等にしている。スプーン等もその方に応じて使用して頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方にはご自分でして頂いている。義歯の方は職員が磨いたり、義歯洗いのチェックを職員が行っている。口腔ケアが出来ない方には職員がウエットティッシュにて清拭を行っている。義歯は夕食後、毎夜、ポリドントにつけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で行ける方も、朝、リハパンを確認させて頂き、時間で誘導している方が落ち着きがないような時は、さりげない声かけにて誘導する。24時間の排泄記録を記入し職員が排泄パターンを把握出来るようにしている。	職員は排泄ケアの研修会に参加している。布の下着(パット)を着用し、排泄が自立している方もおられ、必要に応じて個別誘導をしている。トイレでの排泄を大切にされており、少しでも立ち上がりや立位ができるように生活リハビリを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事作りの際、便通に良い野菜(根菜類)を多く取り入れた食事を心がけている。棟内散歩、外気浴や体を動かす体操をし排便を促し、水分も多く取って頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っているが、失禁時や病院受診、外出予定、行事等によっては、その都度対応している。入浴中は声かけし会話をしてリラックスして頂けるようにしている。冬至には季節感を感じて頂くためにゆず湯をしている。	お風呂好きな方が多い。入浴中は職員との会話を楽しまれ、希望に応じてシャワー浴も行われている。シャワーチェアも購入し、体調に応じて2人介助も行われている。足浴も日常で行われ、脱衣所に靴下を準備しているユニットもある。お気持ちのタイミングを見計らい、入浴の声かけをしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室、ホールベッド、ソファにて休息して頂き、夜間に体調不良の方にはホールベッドで臥床して頂いている。クッションを使用したりして褥瘡が出来ないように体交している。一人ひとりの体調を見ながら、居室の温度調節を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員が目を通せるようにし、副作用や注意事項は、申し送り周知徹底している。そして、声に出して確認し誤薬がおきないようにしている。また、錠剤が服用出来ない方には、粉にして服用して頂いたり、トロミに混ぜたりして服用して頂いている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の得意な方は洗濯物たたみや食事の下ごしらえ等のお手伝いをしてください。レクリエーションの時にぬり絵が好きな方はぬり絵をしてもらい、歌が好きな方には音楽をかけ時々テラスで職員と一緒に歌ったりして楽しんで頂いている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調や気温等に配慮して散歩に出ている。天気等によって外出出来ない時は棟内散歩(1棟から2棟)を行っている。季節ごとにドライブへ行き花見学等に行っている。ご家族様と食事に行かれ、ドライブに行かれてある。	職員は常に「次の外出は・・・」と楽しい企画を考えており、事前の下見も入念に行われている。日々のお散歩を楽しまれ、柿やミカン狩りをされている。季節に応じた花見(ひまわり・紅葉、桜等)やドライブ、道の駅やショッピングセンターでの買い物に行かれており、外食にもお連れしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を自己管理することが難しくなってきたので、管理は家族が行っている。外出先で希望する品物があった場合は、ホームで立て替えて買い物をして頂いている。立替分は後日、家族へ請求している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望され、ホームから家族へ電話をして直接話していただいたり、絵手紙が届いたり時、見ていただき会話している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下、玄関などに、四季に応じた飾り物や掲示物、散歩や行事時の写真を飾っている。温度調節もこまめにしている。	玄関を入ると木をふんだんに使ったリビングがあり、対面式のキッチンで料理を作る職員と会話をされている。装飾担当の職員が季節に応じた飾り付けを行い、会話のきっかけになっている。ご利用者の関係性にも配慮し、テーブルの向きを変えたり、座席の変更も行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを3個設置し、利用者様に好きな所に自由に座って頂けるようにしている。ソファに利用者同士座ってうたたねをされたり、職員も一緒に座って会話している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真を飾ったり、家族が作って来られた作品を飾ったりしている。ソファや椅子、ベッドでゆっくりと過ごせるような居室を作っている。居室から花が見えるように植えている。	居室から柿の木やキンカンの実などを眺める事ができ、ご利用者が柿の収穫時期などを教えて下さる。少しでも安心できるように、家族が抱き枕を持参して下さる方もおられ、家族の写真も貼られている。居室のラジオで、野球や“のど自慢”を聞かれる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合うように畳の居室にしたり、ベッドを使用したりしている。身体状態に応じて肘置き椅子か肘置きのない椅子を使用している。、車イスの必要な方には車イスを使用して頂けるような居室環境を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	○ 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	○ 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	○ 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	○ 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	○ 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	○ 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		